

子供が減少・大人は増加

六十年国勢調査結果の概要

市民のみなさんのご協力で、昨年十月一日現在で実施した国勢調査結果の概要が集計されましたのでお知らせします。

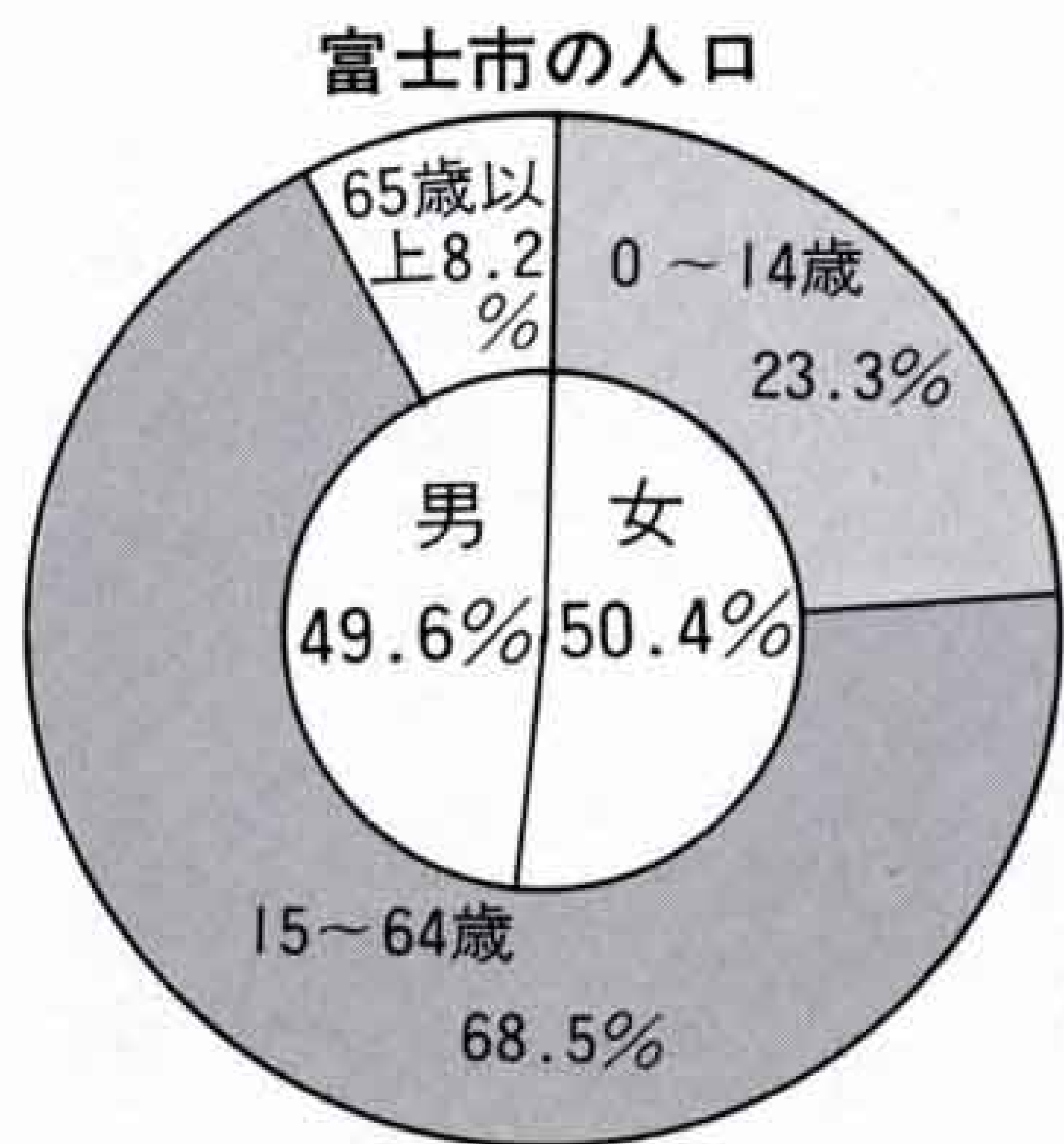
集計作業は、調査票を総務庁統計局で磁気テープに収録したものを市のコンピュータで集計しました。

なお、この結果概要は、先に国・県が公表した「要計表による人口」と多少異なりま

市の人口 二十二万四四八八人

富士市の人口は、大正九年の第一回国勢調査では、六万二九四七人（男、三万一五七四人、女、三万一三七三人）でしたが、第十四回目の昭和六十年国勢調査では、三・四倍の二二万四四八八人（男、一〇万六二六八八人、女、一〇万八一八〇人）になりました。

前回五十五年の調査と比較すると、人口は、八六九七人、四・二パーセントの増で、前回の増加率三・三パーセントより少しふえて、人口密度は、九九六人になりました。年齢別人口では、0歳から十四歳までが三二一五人（六・一パー



前回調査との比較では、第一次産業が九パーセントの減と相変わらず減少し、構成割合も五パーセントを割り、四・六パーセントで

第一次産業 相変わらず減少

産業別人口は、第一次産業が四九二五人（構成比四・六パーセント）、第二次産業五万三五〇一人（構成比四九・九パーセント）、第三次産業四万八七九〇人（構成比四五・五パーセント）でした。

た。

第二次産業は、六・一パーセントの増で、前回調査の二・三パーセントを大幅に上回ったが、構成割合は四九・九パーセントと五割を割ってしまいました。

第三次産業は、増加率九・三パーセントで五十年調査から増加率は毎回少なくなっていますが、構成割合は四五・五パーセントになり、第二次産業との差が縮まってきました。

労働力人口は、一一万五八四人で、前回調査に比べ、七八九六人（七・七パーセント）増加しました。このうち男が三七二七人、女四一六九人と女が男を上回っています。

市外へ 一万六一七九人が通う

通勤、通学で市外へ通っている人口は、全体で一万六一七九人。このうち、通勤者は一万二〇五六人、通学者は四一三三人でした。行き先では沼津市が五二六八人と最も多く、次いで富士宮市四六三四人、静岡市一五〇五人の順でした。

前回調査との比較では、高校の新設に伴い、富士宮市への通学者が一五一一人と2倍になったのが、特に目立ちました。

簡保資金 で公共施設を建設

市は、毎年大蔵省の年金積立や、郵政省の簡易保険積立金から低利で融資を受けています。

市が学校や公園、公民館などの公共施設を建設するには、市民のみなさんからの税金のほか、この融資も建設資金の一部に充てています。

昭和六十年度も次のような施設建設のため総額三十二億九千二百四十万円の融資を受けました。

郵便局簡易保険積立金

富士見台小学校校舎、元吉原小学校給食室整備事業。
原田小学校、大淵第一小学校、富士第一小学校、伝法小学校校舎

年金積立金

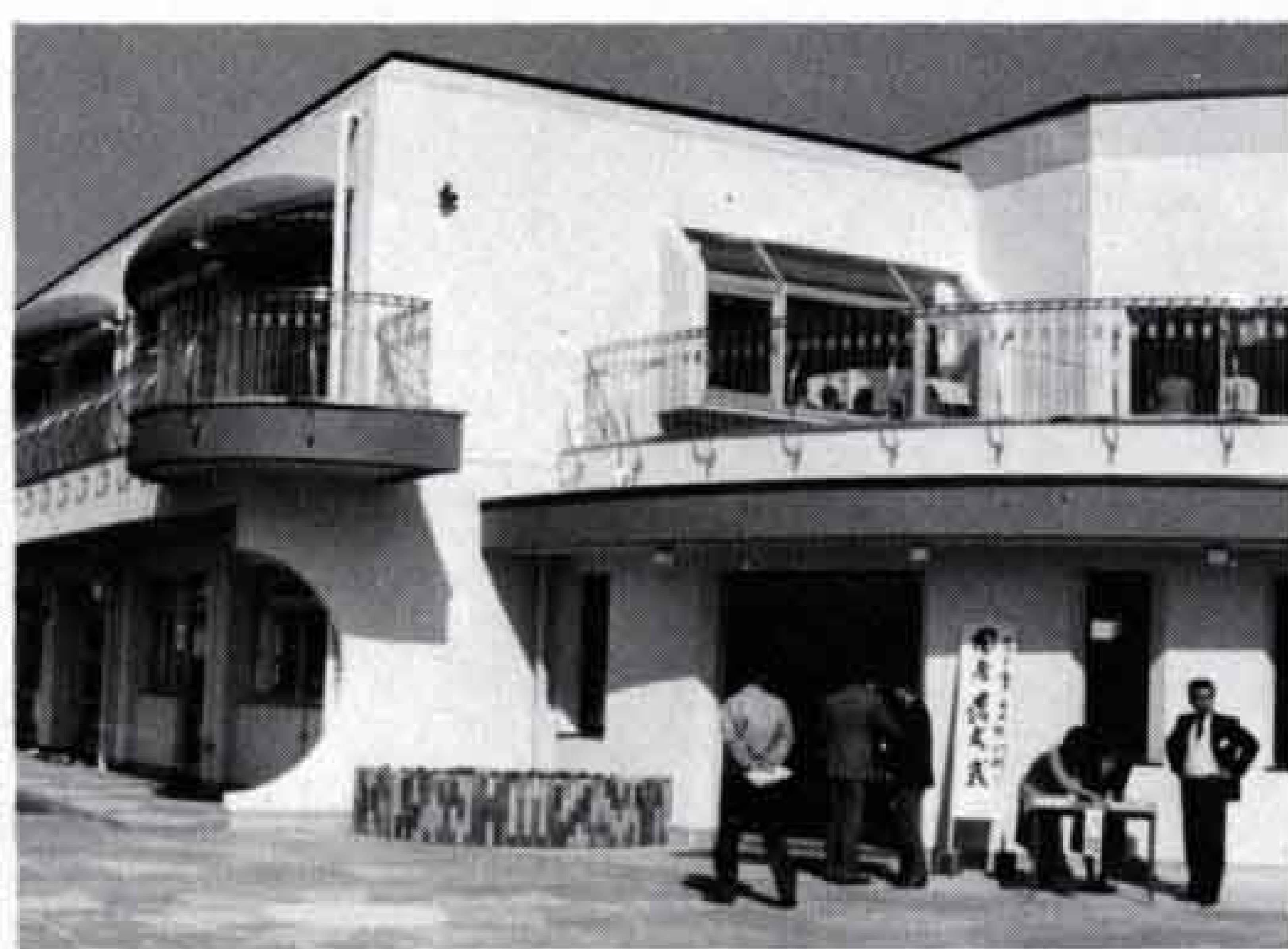
厚原保育園、田子浦公民館、ごみ処理施設、斎場整備事業。
富士公民館増築事業。

耐震補強事業。

吉永第二小学校用地取得事業、神戸小学校用地造成事業。

大淵分署、吉永分署新築事業、大淵幼稚園、田子浦幼稚園整備事業。

富士総合運動公園、岩本山公園、中央公園、原田公園、広見公園、富士川緑地、富士緑道、米之宮公園、吉永緑地、ひばりが丘公園整備事業。



大淵幼稚園



第一清掃工場

1、富士山のように 高く 教養を深め 視野のひろい市民となります